

・自己評価 —教職員—

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組んでいるが成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

評価分類		内 容	チェック
I 保育の 計画性	1	園の教育理念・教育目標の理解	○園の教育理念や教育目標を理解する B
		園の教育理念に基づいて教育目標について園長や保育者と話し合う	C
	2	幼稚園教育要領の理解	○幼稚園教育要領を読み、園長や保育者と話し合って理解に努める C
	3	教育課程の編成	○園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成する B
		園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	B
	4	指導計画の作成	○指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する B
			○指導計画は幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるような順応性のあるものにする B
	5	環境の構成	○安全で清潔感のある環境を構成する B
			○幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する B
			○幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする B
			○遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意する B
			○楽しい雰囲気の中かで安心して遊びこめる環境を構成する B
			○幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成する B
			○幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示をする B
			○園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成にいかす C
			○幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする B
			○季節の変化に応じた環境の構成をする B
	6	評価・反省	○自分の保育についての評価・反省をいくつかの観点から行う B
			○自分の保育を評価・反省することで、次の保育にいかす B

I. 保育の計画性でよく出来ていると思ったこと

- ・季節に合わせた装飾・環境構成を意識できた。
- ・季節や行事に応じて環境設定を行っていること。
- ・発達に応じた環境を構成したり、対応を職員間で一緒に考えることが出来た。
- ・学年会議で課業カリキュラムを週日案の中に組み込み、計画を立てることが出来た。
- ・行事を意識して、早めに計画・準備ができた。
- ・子どもが落ち着いて過ごせる環境を考えたり、設定することができた。
- ・保育室の整理整頓を心がけた。
- ・長期休みに、園の教育課程などの冊子を読み理解に努められた。
- ・子どもの姿をよく捉え、どのように成長していくかを見通しながら、計画的に援助や指導の仕方を考えることが出来た。
- ・行事や季節に応じて、学年で積極的に活動計画を立て、実践することが出来た。
- ・日々の子どもの様子を記録したり、クラス担任で話し合うことで、今後の関わり方や、長い期

- 間を通しての成長や変化を捉えることが出来、計画性をもって保育が出来た。
- 子どもが興味関心を持てる豊富な遊具・玩具を環境構成に活かすことが出来た。
- 自主活動の中で、「どうしたらいいかな?」「何が必要かな?」など、子どもたちの意見を聞く時間を十分に取し、その意見に基づいた素材を準備し、環境を整え、ごっこ遊びを発展させることが出来た。
- 季節に合わせた製作や遊びが出来るような環境設定を行い、その中で子どもの様々な声や心の動きに寄り添いながら関わることが出来た。
- 年少組保育室の窓から、裏の敷地に行き来することが出来、食後も気軽に外遊びが行える日が増えた。
- お店屋さんごっこで、他クラスに行ったり、自分のクラスに呼んだり楽しみながら異年齢の交流も出来た。
- 担任二人制は子どもたちをよく見る事が出来る。

I. 保育の計画性でこれからの課題と想ったこと

- 園庭の草花の名前や虫の名前など、子どもたちが自分たちで調べられるように、もっと図鑑を増やす。
- 草花フラッシュカードを活用できなかった。
- 園の教育理念・教育目標が少し曖昧な部分がある。職員間でもっと共通意識を持てるといい。
- 子どもたちの発達段階を考え、常に反省・見直しをしながら、準備等を進めていくことが必要。
- 季節を意識した環境構成を意識する。
- 教育要領など、振り返ることも大切だと思った。
- 毎年の取り組みを、もっとよりよい活動とするために新たな挑戦ができなかった。
- 行事や活動前の導入にもう少し時間をかけたり、工夫することで、意味や目的を理解しやすいと思った。
- 満三歳児への指導計画を立て、その計画を年少組に上がるまでに達成できるように指導や援助を行う。
- 異年齢交流の場が少なかった。戸外遊びでも、同じクラスの子と遊ぶことが多い。どのようにしていくべきかを考えていく必要がある。

II 保育の在り方、幼児への対応	1	健康と安全への配慮	○朝の登園時には特に視診を大切にし、子どもの体調が悪くないかを確認する	A
			○けがや事故に気をつけ、万一、事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に見てもらうなど適切な処置を行う	A
			○園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	B
			○園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	B
	2	幼児理解	○一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配る	B
			○幼児の話をよく聞き、幼児の思いを受けとめる	A
			○個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	B
			○幼児同士のかかわりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	B
			○幼児たちが今、興味や関心をもっていることを知る	B
			○幼児の理解のために家庭との連携をとる	C
3	指導とかかわり	○幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	B	
		○幼児が理解しやすいような、正しい言葉を使う	B	

		○幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしない	A	
		○善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培ううえでのモデルとなるように心がける	A	
		○幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がける	A	
		○幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	A	
		○幼児が遊びを深めていくための、適切な援助をするように心がける	B	
		○幼児の年齢に応じた援助の仕方を工夫する	B	
		○幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	B	
		○幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	B	
		○幼児を無視したり、体罰を加えることはどのような場合もしない	A	
	4	保育者同士の協力・連携	○クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がける	B
			○クラス的环境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換し合う	B
			○幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解をするように心がける	B
			○他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うような、さまざまな工夫をする	C

II. 保育のあり方、幼児への対応でよく出来ていると思ったこと

- ・ 幼児の体調や様子の変化には気をつけている。
- ・ 登園時、クラス全員と挨拶をかわし、朝の様子を確認した。かわった様子があるときは担任同士で伝え合うこともできた。
- ・ 一人ひとりに対して、理解を深めその子に合った対応を心がけた。
- ・ 担任と一緒に子どもの状態や今後の課題・援助の仕方を話し合い、実践することが出来た。
- ・ トラブルが起きたとき、子どもたちの気持ちに寄り添いながら解決できるように一緒に考えながら関わることが出来た。
- ・ 子どもたちが自分を出しながら、安心して過ごせるよう、子どもたちの声に耳を傾け、声をかけ、接するようになった。
- ・ 一人ひとりの子どもの姿を受け止め、その子の良さをクラスに全体に伝えられるように心がけた。
- ・ 子ども話をよく聞き、気持ちを受け止められるようにした。
- ・ 良いことと悪いことをしっかりけじめをもって伝えることができた。
- ・ 絵本から、ごっこ遊びやクッキングへと遊びが広がり、教師と子どもの一体感を感じた。

II. 保育のあり方、幼児への対応でこれからの課題と思ったこと

- ・ 異年齢交流の回数や内容を見直す必要がある。自主活動中に、行き来できる環境を作れたらいい。
- ・ 様々な個性を持った子どもたちがいる中で、一人ひとりに眼が行き届かなくなってしまうこともある。しっかりと全体に目を向けて関わる。
- ・ 一人ひとりの発達を理解し、見通しをもって指導していくこと。
- ・ 子どもたちの興味関心を把握しきいていない時があり、遊びの発展につなげてあげられないことがあった。
- ・ 一つの遊びに対して、たくさんの楽しみ方があることを提案してあげられるとよかった。
- ・ 男女で関わって仲良く楽しめる工夫が足りなかった。
- ・ 子どもたちの遊びが発展していくよう、また子ども同士のつながりが広がっていくような工夫や声掛けが出来るといい。
- ・ 一人ひとりの課題に対して、今後どのように関わっていくべきかをもっと話し合う。

Ⅲ 保育者としての資質と能力	1	専門家としての能力・姿勢・義務	○幼児の性格や個性を把握し、幼児の考えや感じていることを理解する	B
			○保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努める	B
			○保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がける	B
			○幼稚園には自分自身のプライベートな生活をもち込まないようにする	B
			○幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにする	A
			○服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がける	B
			○職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る	A
			○園の重要書類は持ち出さない	A
			○締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守る	B
	2	組織の一員としての在り方	○教職員全員で一つのチームであることを自覚する	B
			○他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるよう努める	B
			○子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をする	B
			○当番や役割による仕事は確実に行う	A
			○園や保育者に関することについては、軽はずみに他に話さない	A
	3	保育の楽しみ・喜び	○幼児の成長を自分の喜びと感じる	A
○幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じる			A	

Ⅲ. 保育者としての資質と能力でよく出来ていると思ったこと

- ・自分に与えられた仕事など、責任をもって行う事が出来た。
- ・保育に対しての楽しみや、子どもの成長を職員間で喜び合える。
- ・一人ひとりの成長に喜びを感じながら保育をすることができた。
- ・自分のクラスだけでなく、他クラスの子どもの成長も嬉しく感じた。
- ・身だしなみを心がけることができた。
- ・子どもたちの成長を保護者と一緒に喜び合うことができた。
- ・プライバシーに関することはしっかり守れた。
- ・子どもの話に耳を傾けたり、声掛けやスキンシップを取ることができた。
- ・お迎えの保護者には、今日の出来事などを伝え、なるべく会話するように心がけた。
- ・担任同士、子どもの成長や課題に対して話し合うことが出来た。
- ・子どもたちと一緒にいる時間が心から楽しいと思える。子どもたちから活力をもらい、自分自身も成長させてもらっている。
- ・本園の教育目標を踏まえ、今まで培ってきた自分自身の遊びの感性を十分に保育に活かすことができた。
- ・提出物は、期限を意識して取り組むことが出来た。
- ・行事の担当に当たっているときは、先輩の先生達に助けてもらいながら、責任をもって取り組むことが出来た。
- ・行事の時は特に、教職員の団結を感じる。

Ⅲ. 保育者としての資質と能力でこれからの課題と思ったこと

- ・研修会で学んだことを、実践に活かせるようにすること。
- ・保護者と話す機会は、自分で作ろうと思わないとなかなか作り出せない。なるべくお迎え時には積極的に子どもの様子を伝えられるようにし、保護者との信頼関係を築く。
- ・お迎えにくる保護者には、様子を細かく伝えることが出来ても、なかなか幼稚園に来ることのない保護者に対しては、どのように様子を伝えるべきか、難しさを感じた。
- ・身だしなみや、保育への姿勢を見直す。

- ・提出物の締め切りを守れないこともあった。見通しをもって取り組む。
- ・一人ひとりの発達や個性を把握し、援助していくこと。
- ・様々な課題に対して、担任同士・職員間でもっと相談し、実践していくとよい。
- ・様々な幼稚園の先生達の保育を見たり、関わったりする機会があるといい。新しい発想が思い浮かんだり、さらにレベルアップできると思う。

IV 保護者への 対応	1	情報の発信と受信	○保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をする	B
			○保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	A
	2	守秘義務の遵守	○保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従う	A
			○個々の幼児や保護者、家族の情報は口外しない	A
	3	対応上のマナー・心がまえ	○日常生活において、その場にあった正しい言葉を使うようにする	A
			○電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がける	B
			○保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	A
	4	要望への対処の仕方	○保護者から要望があった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告、連絡、相談をする	A
○要望の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解のうえで対処する			B	

IV. 保護者への対応でよく出来ていると思ったこと

- ・いつもと違う様子があるときは伝えるようにする。
- ・子どもの日々の様子など、丁寧に伝えることができた。
- ・言葉遣いに気をつけて対応した。
- ・幼児の成長した姿やその日に頑張ったことなど、保護者に伝え喜びを共有している。
- ・お迎え時など、直接話す機会があるときは、家での様子や、保護者の心配事などを聞いたりすることもできた。
- ・交換ノートや電話、個人懇談時に、少しでも幼稚園様子が分かりやすいよう、エピソードをまじえながら具体的に伝えるようにした。
- ・バス添乗時は、笑顔で挨拶ができるように心がけた。
- ・電話対応は、相手が気持ちよく思ってもらえるように明るく対応するようにこころがけた。
- ・相談されたことに対して、話をよく聞き、一緒に考えることができた。
- ・何か問題が起きたときには、上の先生に相談して、一緒に考えてもらうことができた。

IV. 保護者への対応でこれからの課題と思ったこと

- ・お迎えが多い保護者とそうでない保護者では、偏りがでてしまう。
- ・顔を合わすことの少ない保護者にも、子どもの様子をつたえ、コミュニケーションを取り、信頼関係を築きたい。
- ・もっと連絡を密に取れるとよかった。
- ・保護者からの相談に対して、思うように答えられないことがあった。
- ・園での様子を具体的に話したり、家庭での様子を聞いたり、どの家庭とも連携がとれるともっとよい。
- ・電話が苦手ではあるが、子どもの様子をもっと伝えられるよう、回数を増やして慣れていけるように努力したい。
- ・保護者への対応は、とても緊張するが、言葉遣いや表情に気をつけて丁寧に対応することを心がける。

V 地域の自然 や社会との かかわり	1	地域の自然・人々とのかかわり	○地域の人々と親しくあいさつや会話を交わすように心がける	B
			○地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	B
			○地域の自然や機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をする	B

	2	小学校との連携	○小学校の教育内容について理解するよう努める	C
			○地域の小学校の行事や公開授業に関心をもつ	C
	3	子育ての支援と地域への開放	○子育ての支援や地域開放について具体的な形や内容を理解する	C
			○子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合う	C

V. 地域の自然や社会とのかかわりでよく出来ていると思ったこと

- ・ 体験入園やどんぐりクラブに参加することで、未就園の子どもたちと関わる事ができた。
- ・ 小学校の授業を見に行くことができ、内容や様子を知ることが出来た。また、就学後の成長を直接見て感じる事ができた。
- ・ 園外に出たときに子どもたちから挨拶をしたり、会話をする姿が見られたのは嬉しかった。
- ・ 常盤小学校との交流、近くの飲食店への見学はとてもよかった。
- ・ 幼小交流では、小学校としっかりと打ち合わせをして取り組める事が出来た。
- ・ 収穫祭の買い出しで近くのスーパーに行ったりすることで、公共のマナーについても学ぶ事ができた。
- ・ マップを作ったことで、どこに何があるのかを知り、活用できた。
- ・ 来園者や地域の方と挨拶することを、手本となるよう自分自身も意識して行うようにした。

V. 地域の自然や社会とのかかわりでこれからの課題と思ったこと

- ・ 年長だけでなく、年少中組も小学校などの行事に参加できたらよい。
- ・ もっと、散歩を多く取り入れ、常盤の街を知れるとよかった。
- ・ 地域との関わりがあまりなかったように感じる。
- ・ お仕事見学はとても良い経験になり、遊びにもつながるため、どんどん増やしていきたい。
- ・ 幼小交流では、子ども同士の交流はあるが、もっと先生同士の交流があるとよい。幼小接続へのスムーズな取り組みの一つになると思う。
- ・ 小学校や地域の施設などへの理解が足りなかった。勉強していかなければならない。
- ・ マップをさらに活用する方法を検討。

VI 研修と研究	1	研修・研究への意欲・態度	○研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加する	A
			○自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行う	B
			○自分の保育の在り方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	B
	2	保育者としての専門性に関する研修・研究	○幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行う	B
			○記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行う	B
			○教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う	B
			○保育記録に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行う	B
			○幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修・研究を行う	B
			○保護者への対応に関する研修・研究を行う	B
			○地域社会との交流に関する研修・研究を行う	C
	3	今日的課題に関する研修・研究	○アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解する	B
			○障がいのある幼児の理解と対応について研修する	B
			○預かり保育や子育ての支援について研修する	B
			○幼小連携の必要性や具体的方策について研修する	B
			○危機管理の必要性と対応について研修する	B

VI. 研修と研究でよく出来ていると思ったこと

- ・園内研修が充実し、色々な先生と意見を交換したり、考え方を知れたり、勉強になった。
- ・園内研修を行う事で、教師の想いが一つになり、色々なことを再確認することができた。
- ・園内研修では、今後色々なテーマで出来るとさらに良いと思う。
- ・岩城先生の研修がとても心に残る、学びの多い楽しい研修であった。
- ・去年の保育を振り返り、「ごっこ遊び」に力を入れる！という目標を立てて、保育に当たることが出来た。
- ・日々の様子を記録する日案では、工夫して記入することができた。振り返りを行う事で、個々の良さを見つけていけるようにした。
- ・様々な研修会に積極的に参加することで、様々な分野の講師の方の話を聞き学ぶことが出来た。
- ・いろいろな先生と交流することで、当たり前と思っていたことを見直すきっかけになったり固定概念になりそうだったものに気付いたり、とても勉強になった。
- ・研修で学んだことで、すぐに保育に活かせるようなことは、積極的に取り組んだ。
- ・自分の考えを伝えたり、他の人の意見を聞いたり、情報を交換したりすることで、さらに自分自身の考えを見直したり、まとめることが出来た。
- ・自分には今どんな研修が必要なのかを見極めて、参加することが出来た。

VI. 研修と研究でこれからの課題と思ったこと

- ・玩具の一つ一つにねらいや願いがあるので、そこをしっかりと理解し保護者にも伝えていきたい。
- ・課題をもって積極的に研修会に参加していきたい。
- ・夜の研修会では、時間に間に合わない事があった。仕事がギリギリにならない様にすべきだった。
- ・参加する研修内容に偏りがあるので、参加したことのない分野を学べるようにしたい。
- ・様々な園の取り組みなど、情報を交換することで、自園で何が出来るかを考えたり工夫したりプラスにしていきたい。そのためには、研修での関わりを増やせるといい。
- ・地域社会との連携に関しての研修があればぜひ受けてみたい。
- ・園内研修で話し合ったことを実践し、また話し合いを繰り返していくことが大切だと思う。
- ・それぞれが参加した研修は、全職員で共有できるように、工夫が必要。

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組んでいるが成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である